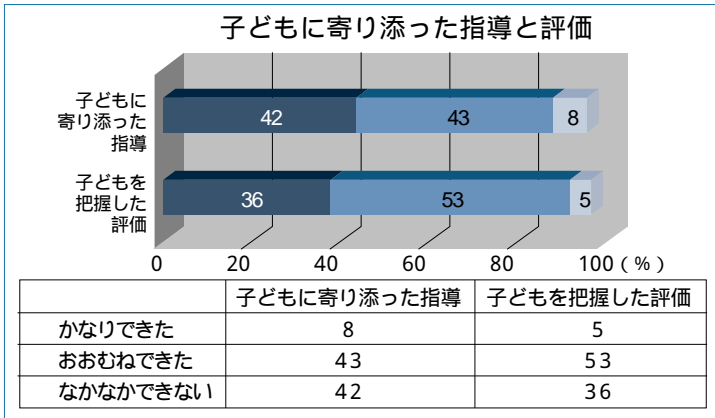


また、設問「子どもの学習状況を把握しながら、評価するように心がけてきましたか」に対しては、「かなりできた」「おおむねできた」合わせて58%でした。その主な理由をみると、

- ・今まで以上に自分なりに意識し、記録を累積するようになった。
- ・補助簿作成の必要感も手伝い、より細かな観点で評価するよう心がけた。

などがあり、教員の意識化も進んでいていると考えられます。



一方、「なかなかできない」と答えた教員は36%と、数は多いですが、2学期制導入を契機に、よりよい評価方法をめざして厳しい自己評価をしたからこそその数とらえています。

7月の時期、学習指導をはじめ、大会を目前に控えた部活動指導、夏休みの準備、補助的な評価資料の作成など、目の前の子どもたちのより良い成長を願いながら、教師は日々努力し続けてきました。また、個別懇談会が多くの学校で夏休み中に移行し、充実した話し合いの場がもたれました。2学期制導入を契機に、教員は、これまで以上に、子ども一人ひとりに合った、きめ細かな支援をしようとする意識が高まりつつあると考えられます。



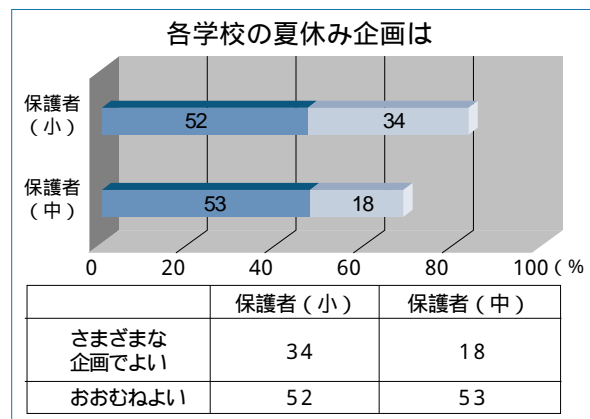
夏休み中の各学校の企画と子どもの参加

2学期制では、「長期休業がそれぞれの学期間に入るため、長期休業を生かした継続的な学習が展開できる」良さが挙げられます。そこで、今年は各学校で次のような夏休み企画を行いました。

- 夏休み中の主な企画
- ・プール開放(強化指導含む) 平均14日間 1日160人
 - ・図書館開放(読み聞かせ含む) 平均16日間 1日25人
 - ・補充学習(学級・学年)
 - ・総合的な学習
 - ・体験学習、ひとり学びなど
 - ・サマースクール
 - ・寺子屋式各種体験講座、絵画・作品製作など

この点について、特に、「夏休み中の企画」と「参加状況」を保護者と子どもに聞いてみました。保護者に対する設問「夏休み中に学校ごとに計画された行事についてどう思いますか」では、特に小学校で「さまざまな企画でよい」「おおむねよい」合わせて86%と高い数値を示しており、各学校の

さまざまな企画に対して好意的に見ていただいていることがわかります。こうした企画の立案が可能になった背景には、市内各学校の図書館へのエアコンの設置があったからこそ考えられます。



そして、参加の状況については、小学生は、「ほとんど参加」が26%、「半分参加」が45%と高い数値を示しており、各校独自のさまざまな企画に対して、意欲的に参加している様子がうかがえます。一方、中学生の参加状況は低くなっていきますが、1・2年生のほとんどが部活動に参加しているた